

Technology to Inspire Innovation

2015年度中間決算及び 通期見通し説明会

2015年10月28日

6807 日本航空電子工業株式会社

I . 中間決算

II . 通期見通し

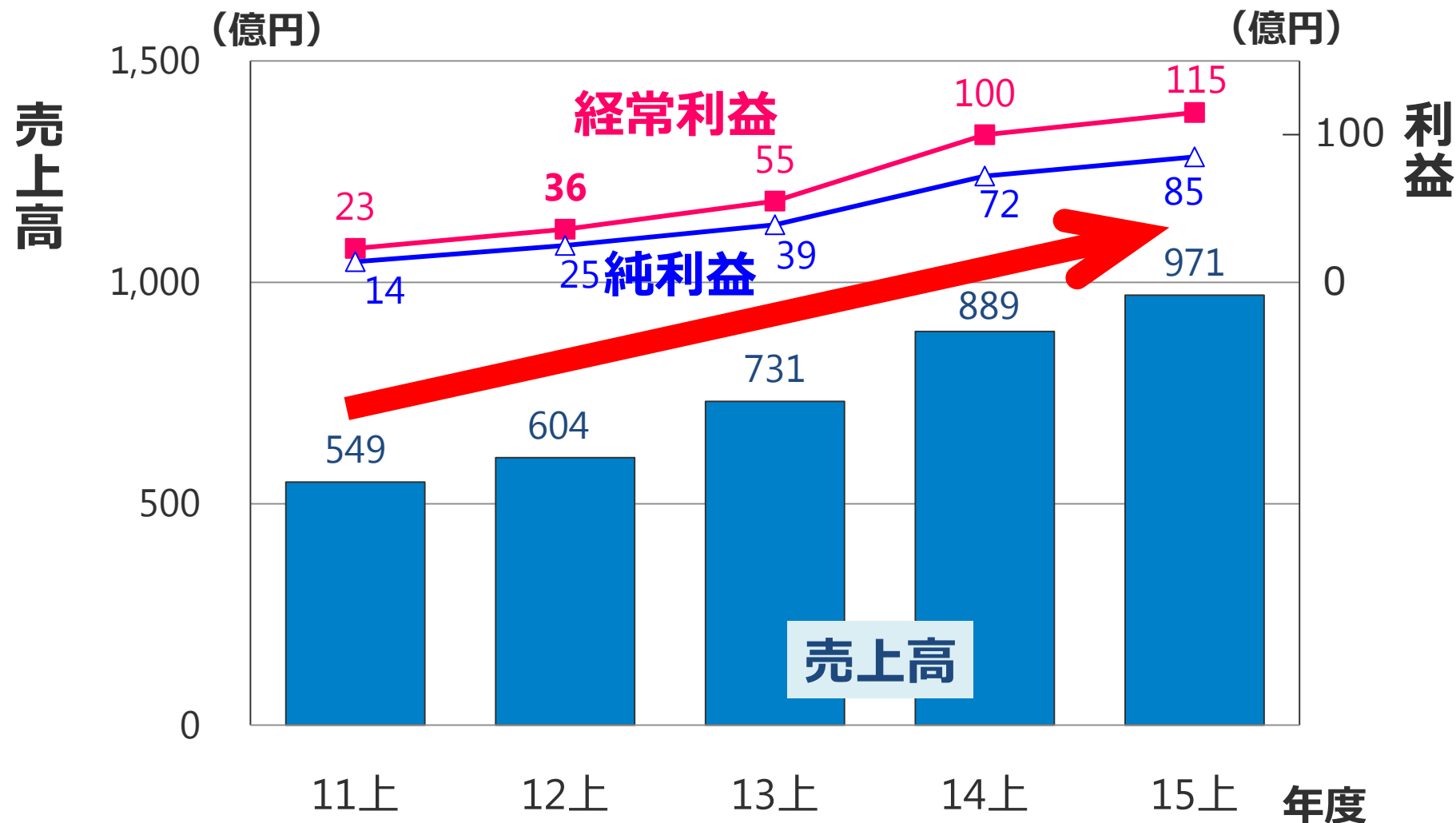
1-1. 全社売上・利益

	2014年度		2015年度		前年同期比		15年4月公表 上期業績予想
	上期		上期		15上期／14上期		
	(億円)	(利益率)	(億円)	(利益率)	(億円)	(伸率)	(億円)
売上高	889		971		+82	109%	970
営業利益	106	11.9%	124	12.8%	+18	117%	124
経常利益	100	11.2%	115	11.9%	+15	116%	112
純利益	72	8.1%	85	8.8%	+13	118%	80

※ 金額は億円単位に四捨五入しております。

1-2. 全社上期売上・利益推移

上期としては、4年連続増収・増益により過去最高業績を更新



※ 金額は億円単位に四捨五入
しております。

■ 売上高 ■ 経常利益 ▲ 純利益

2-1. 事業部門別売上高

	2014年度		2015年度		前年同期比	
	上期		上期		15上期／14上期	
	(億円)	(構成比)	(億円)	(構成比)	(億円)	(伸率)
コネクタ	780	88%	876	90%	+96	112%
UIS	33	4%	41	4%	+8	125%
航機	72	8%	50	5%	-22	70%
その他	4	—	4	—	0	—
計	889	100%	971	100%	+82	109%

※ 金額は億円単位に四捨五入しております。

2-2. 事業部門別営業利益

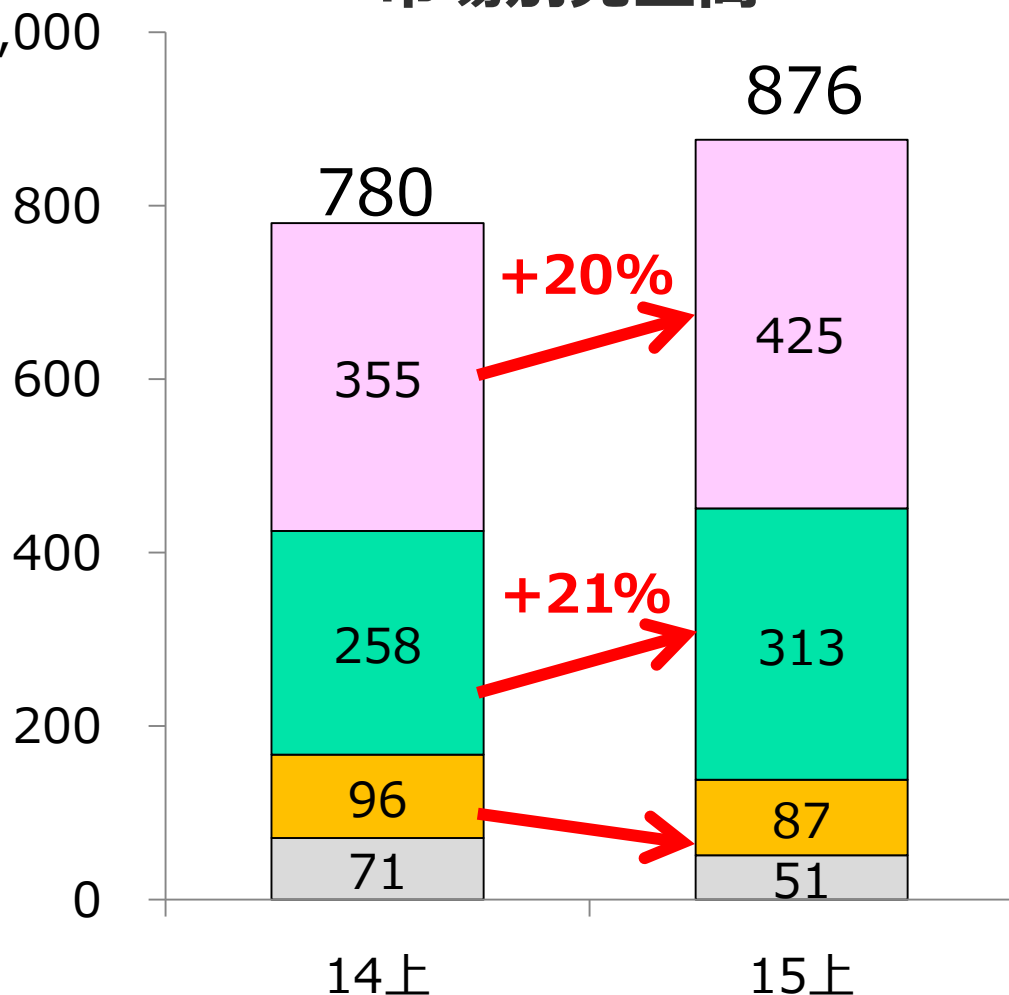
	2014年度		2015年度		前年同期比	
	上期		上期		15上期／14上期	
	(億円)	(利益率)	(億円)	(利益率)	(億円)	(伸率)
コネクタ	121	15.5%	150	17.1%	+29	124%
UIS	1	2.1%	6	14.1%	+5	829%
航機	3	3.9%	-8	-15.9%	-11	—
配賦不能 他	-19	—	-24	—	-5	—
全社	106	11.9%	124	12.8%	+18	117%

※ 金額は億円単位に四捨五入しております。

2-3. コネクタ事業

(億円)

市場別売上高



➤ 携帯機器

北米顧客向けが成長を牽引し、20%増収。

➤ 自動車

日系顧客向けが大きく伸長。欧州顧客向けも堅調に伸び、21%増収。

➤ 産機・インフラ

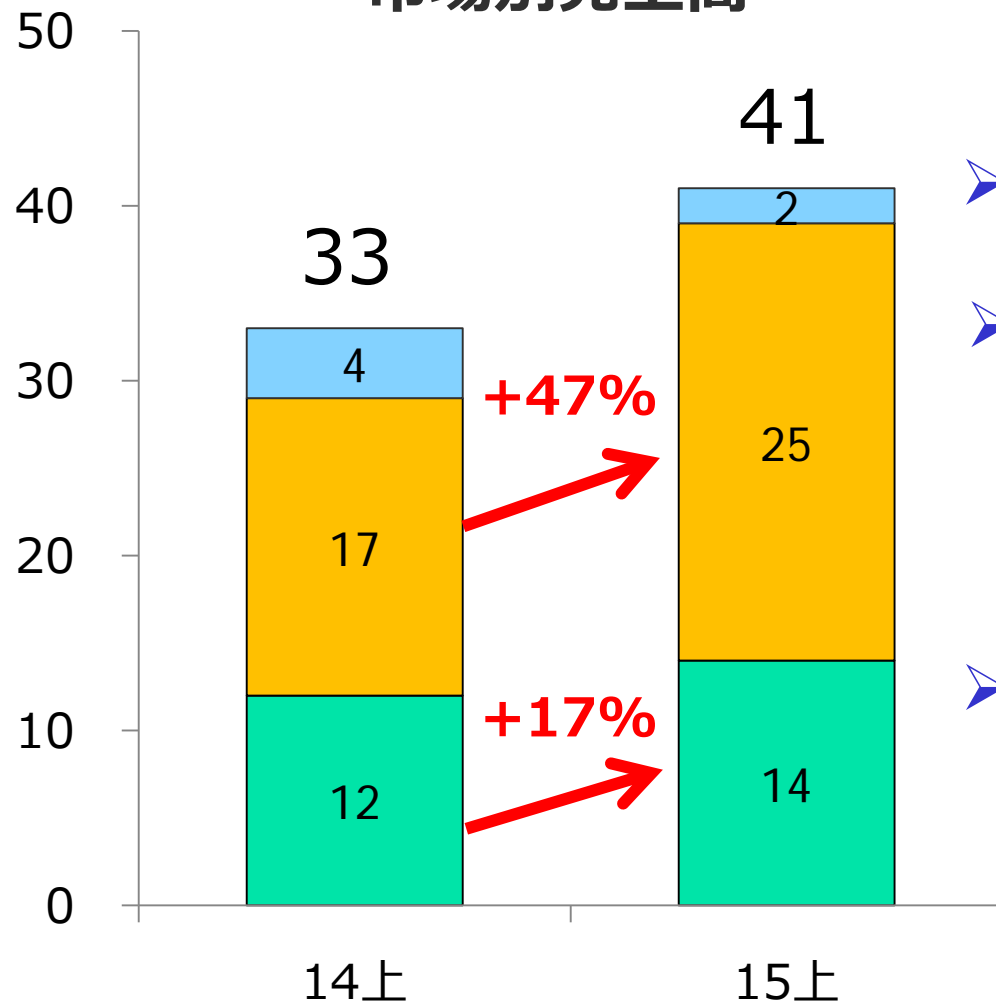
中国経済減速の影響から、日系顧客向けが減収。

■ その他 ■ 産機・インフラ ■ 自動車 ■ 携帯機器

2-4. UIS事業

(億円)

市場別売上高



➤ デバイス

➤ 自動車

車載用静電タッチパネルで
日系顧客向けが拡大し、
47%増収。

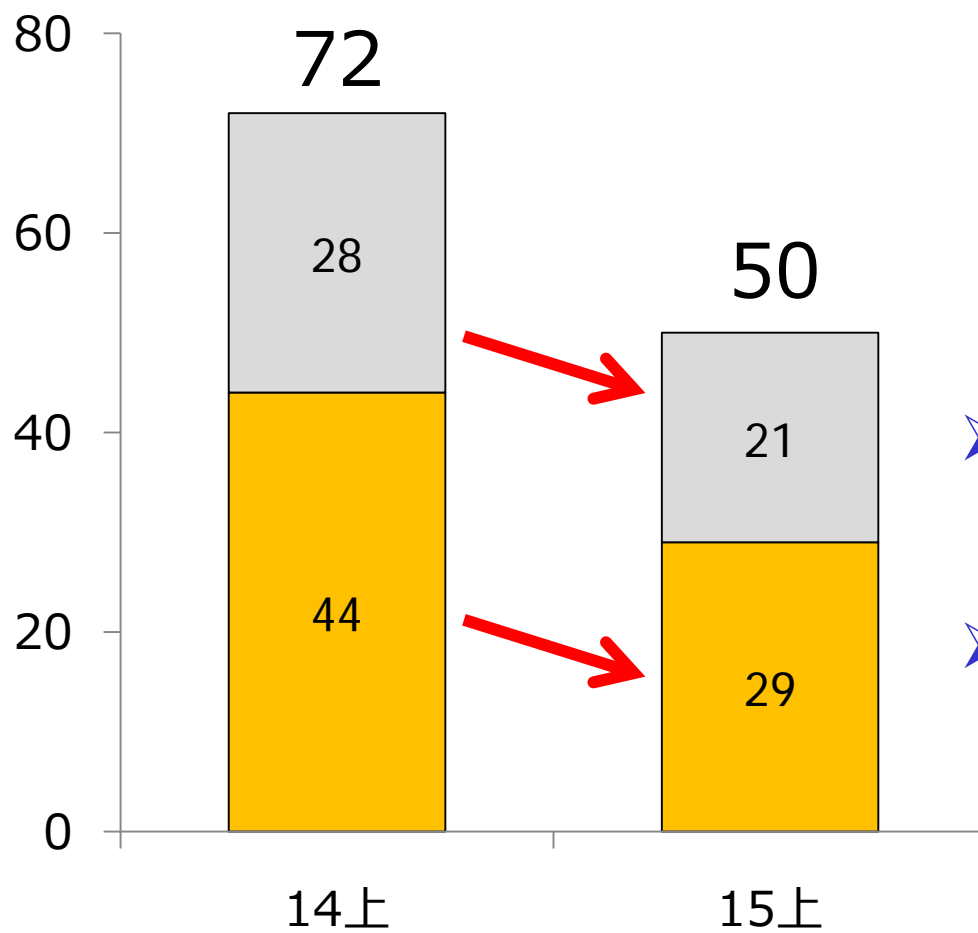
➤ 産機・インフラ

厳しい市場環境の中でも
産業機器・医療機器顧客向けが
拡大し、2ケタ成長を確保。

■ 産機・インフラ ■ 自動車 ■ デバイス

市場別売上高

(億円)



➤ 防衛・宇宙

➤ 産機・インフラ、自動車

原油価格低迷の影響で
海外大手油田掘削顧客向けが
減少。

■ 産機・インフラ、自動車 ■ 防衛・宇宙

3. 市場別売上高

	2014年度		2015年度		前年同期比	
	上期		上期		15上期／14上期	
	(億円)	(構成比)	(億円)	(構成比)	(億円)	(伸率)
携帯機器	355	40%	425	44%	+69	120%
自動車	279	31%	342	35%	+62	123%
産機・ インフラ	149	17%	127	13%	-23	85%
その他	106	12%	77	8%	-26	73%
計	889	100%	971	100%	+82	109%

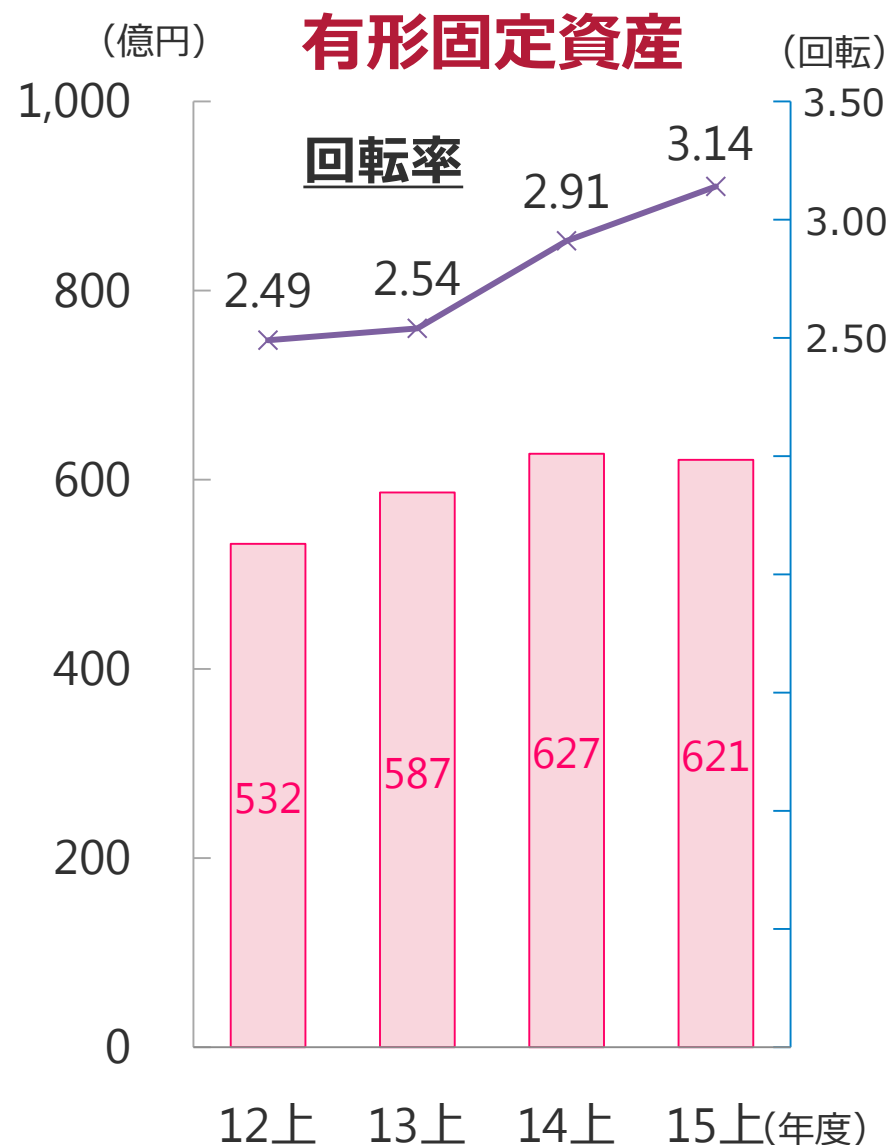
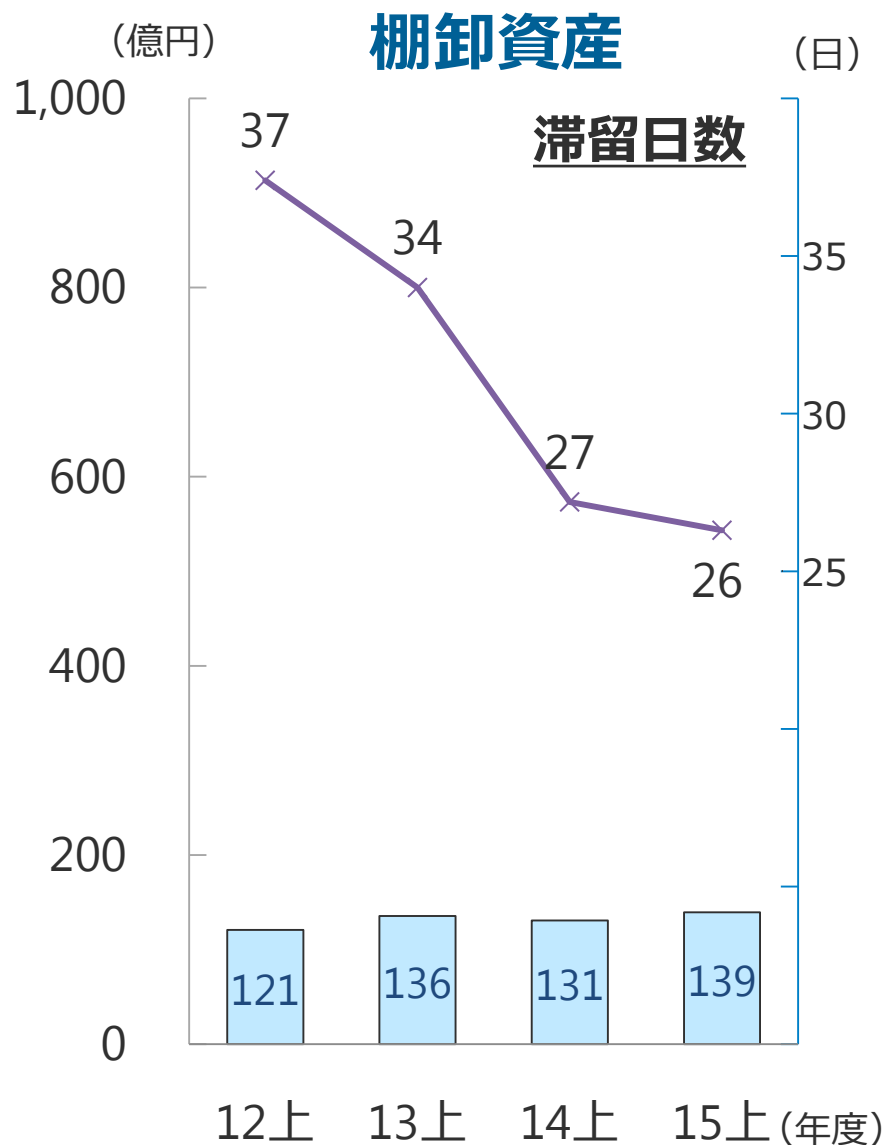
※ 金額は億円単位に四捨五入しております。

4. 国内・海外売上高

	2014年度		2015年度		前年同期比	
	上期		上期		15上期／14上期	
	(億円)	(構成比)	(億円)	(構成比)	(億円)	(伸率)
国内	274	31%	257	26%	-17	94%
海外	615	69%	714	74%	+99	116%
計	889	100%	971	100%	+82	109%

※ 金額は億円単位に四捨五入しております。

5. 資産効率の改善



※ 金額は億円単位に四捨五入しております。

I . 中間決算

II . 通期見通し

事業環境

- マクロ環境は、中国経済減速の影響を受け、不透明な状況が継続。
- 一方、不透明な環境下でも、伸びる市場は存在し、成長している顧客の活躍は継続。

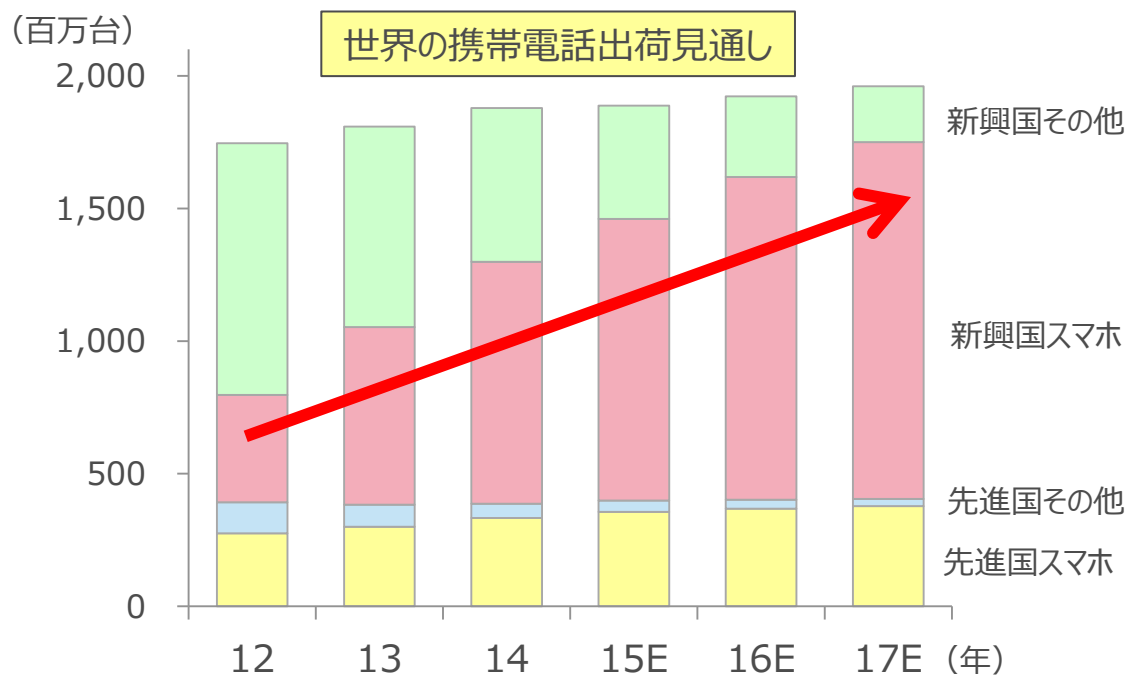


下期方針

- 成長市場・顧客への拡販に注力することで、受注・売上の伸長を実現する。
 - 顧客別・市場別戦略に基づく重点3市場への拡販推進
 - 戦略製品・新製品による成長市場での実績拡大

1-2 .市場別戦略①（携帯機器）

- 北米顧客に加え、中国顧客を伸ばす。
 - ✓ 中国顧客の端末ハイエンド化、新興国ビジネスによる成長機会をキャッチ。
 - ✓ 実績のある小型・薄型の基板対基板用コネクタを中心に顧客ニーズを捉え、さらなる成長を目指す。



出典:大和エレクトロニクス・クォーター

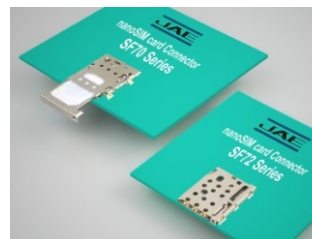
Copyright © 2015. Japan Aviation Electronics Industry. Ltd

基板対基板用コネクタ
高電流対応 業界最小クラス
WP10シリーズ
嵌合高さ0.7mm
10A通電可能



2015.10 リリース

nanoSIMカード用コネクタ



SF70・72シリーズ

業界最低背・
最小面積クラス

USB Type-C™ USB 新しい時代へ

コネクタの規格化に参画し、
USB Type-C™を開発

Technology to Inspire Innovation



- 標準品、カスタム品の展開で多くのコネクタ／ハーネスを開発。
- 多数のお客さまからの採用が決定。現在も商談拡大中。

市場展開が加速する USB Type-C™ 「DX07」

JAE

Technology to Inspire Innovation

- USB (Type A/B) コネクタに代わる
次世代の標準I/Oとして、あらゆる機器に広がる。
- コネクタ規格化参画メーカーとして世界トップを狙う。

PC
(搭載済)

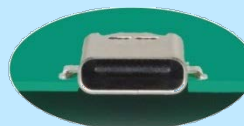


カーナビ
カーAV



1つのType-Cケーブルで、あらゆる機器の
データ伝送・電力伝送が可能に。

USB 3.1 Type-C 「DX07」



- ・表裏どちらでも挿抜可能なリバーシブル構造
- ・小型ウェアラブル機器へ搭載可能
- ・高画質映像データの高速伝送
- ・急速充電、双方向給電
- ・電源・各種I/Fホールの統一 等々



TV / ビデオ



ゲーム機



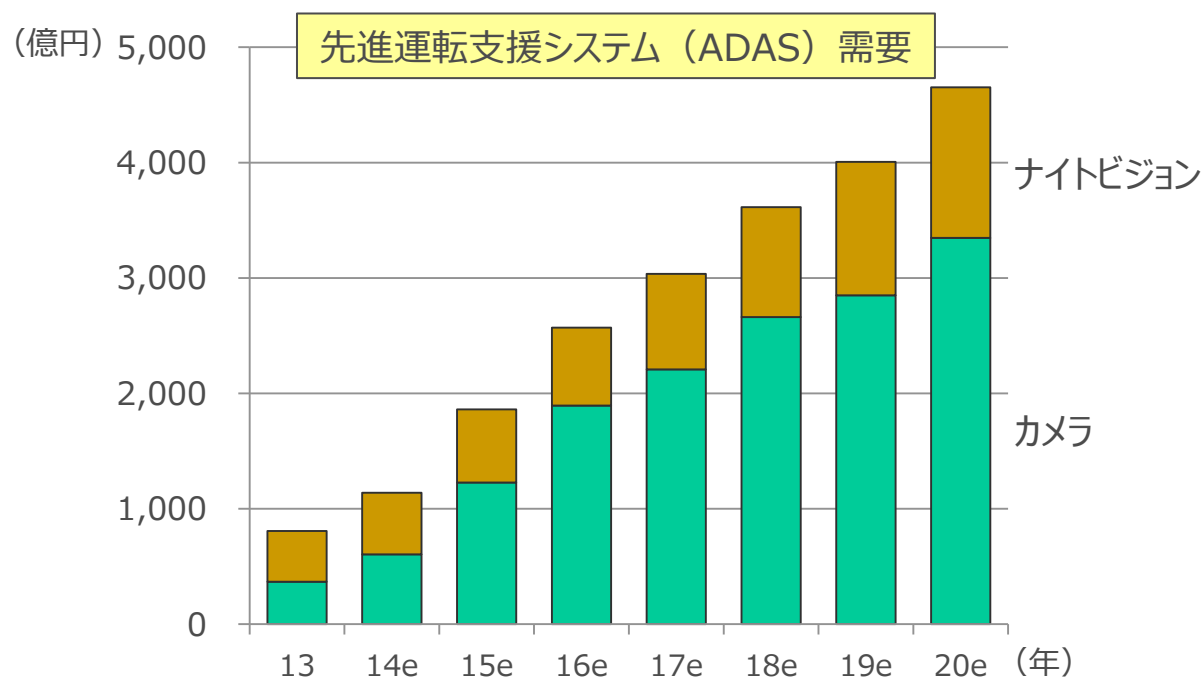
DSC / DVC



ウェアラブル機器

1-3. 市場別戦略②（自動車）

- ▶ 欧州では車載カメラのデジタル化が先行。国内は今後急速に拡大する見通し。
- ▶ 欧州顧客での実績をベースに車載デジタルカメラ用コネクタのグローバル展開を加速。
特に国内自動車・カメラメーカー向け拡販に注力。



出所：矢野経済研調査よりSMBC日興証券作成

Copyright ©2015. Japan Aviation Electronics Industry. Ltd

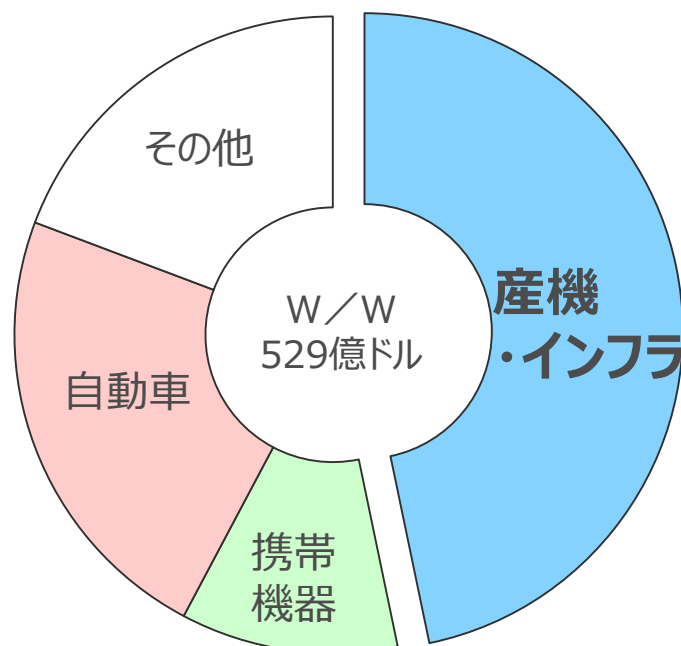
車載カメラ用コネクタ
MX55シリーズ



1-4. 市場別戦略③（産機・インフラ）

- 産機・インフラ市場はコネクタ市場の46%。
- 世界的に競争力を持つ日本の大手FA・工作機械・ロボット顧客での実績をベースに、幅広い拡販に注力。

2014年 コネクタ市場別出荷額



出所：Bishop Report より当社作成

ワンタッチロック嵌合方式
丸型防水コネクタ
JL10シリーズ



2015.8 リリース

VG95234規格
準拠丸型コネクタ
JK06シリーズ



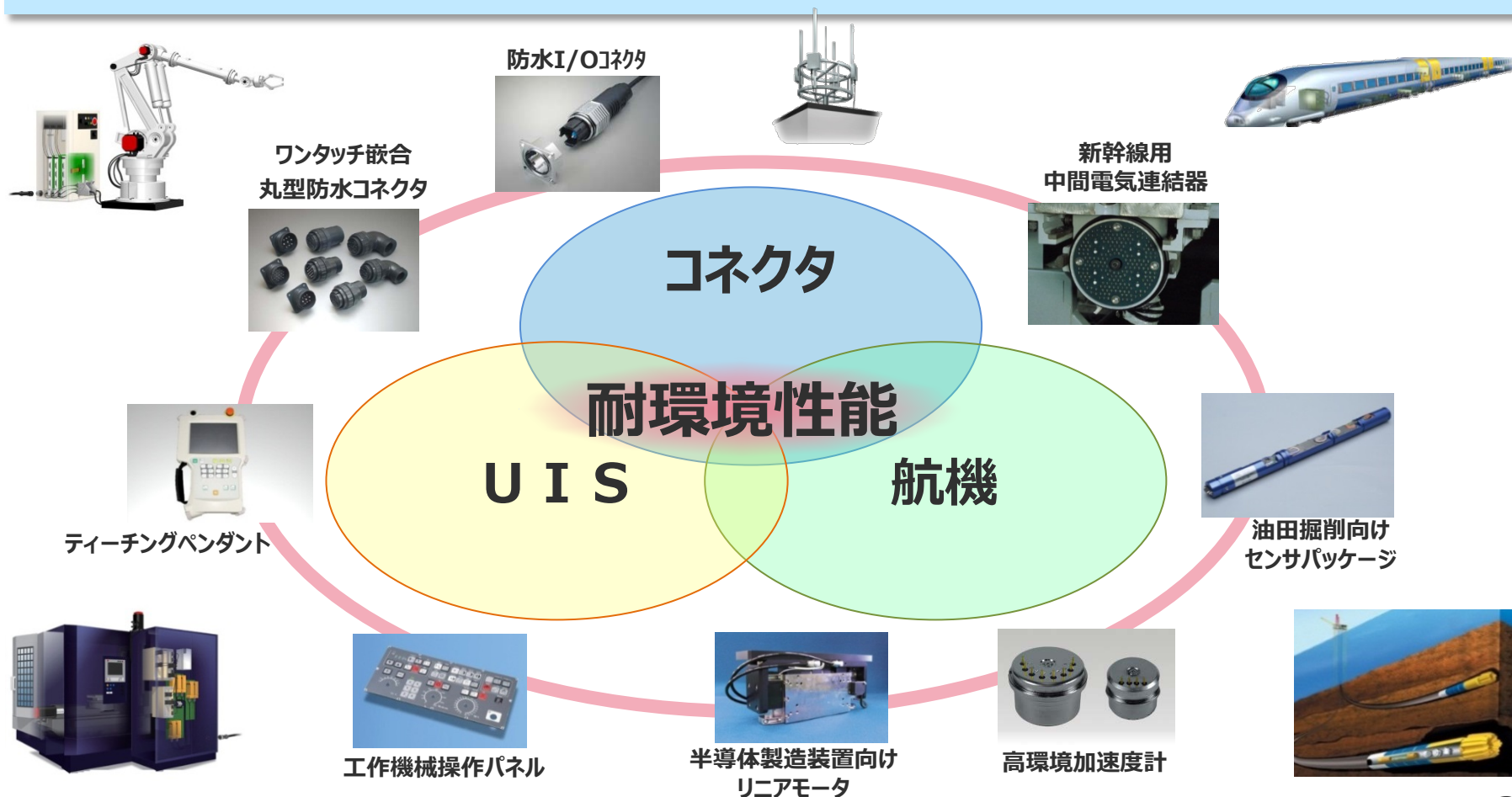
2015.8 リリース

産業機器向け
小型I/Oコネクタ
DZ02シリーズ



「過酷な環境下での信頼性」を活かす

- 産機・インフラ市場で共通して求められる
『過酷な環境下での信頼性』（温度、湿度、圧力、振動、塵埃、油等）
に対し、3事業の実績で培った強みを活かす。



**自動車・産機インフラ分野など、品質・信頼性に関する
顧客要求の高度化に応えるため、評価試験棟（3,400㎡）
を着工。（2016年3月完成予定）**



完成予想図

評価装置群

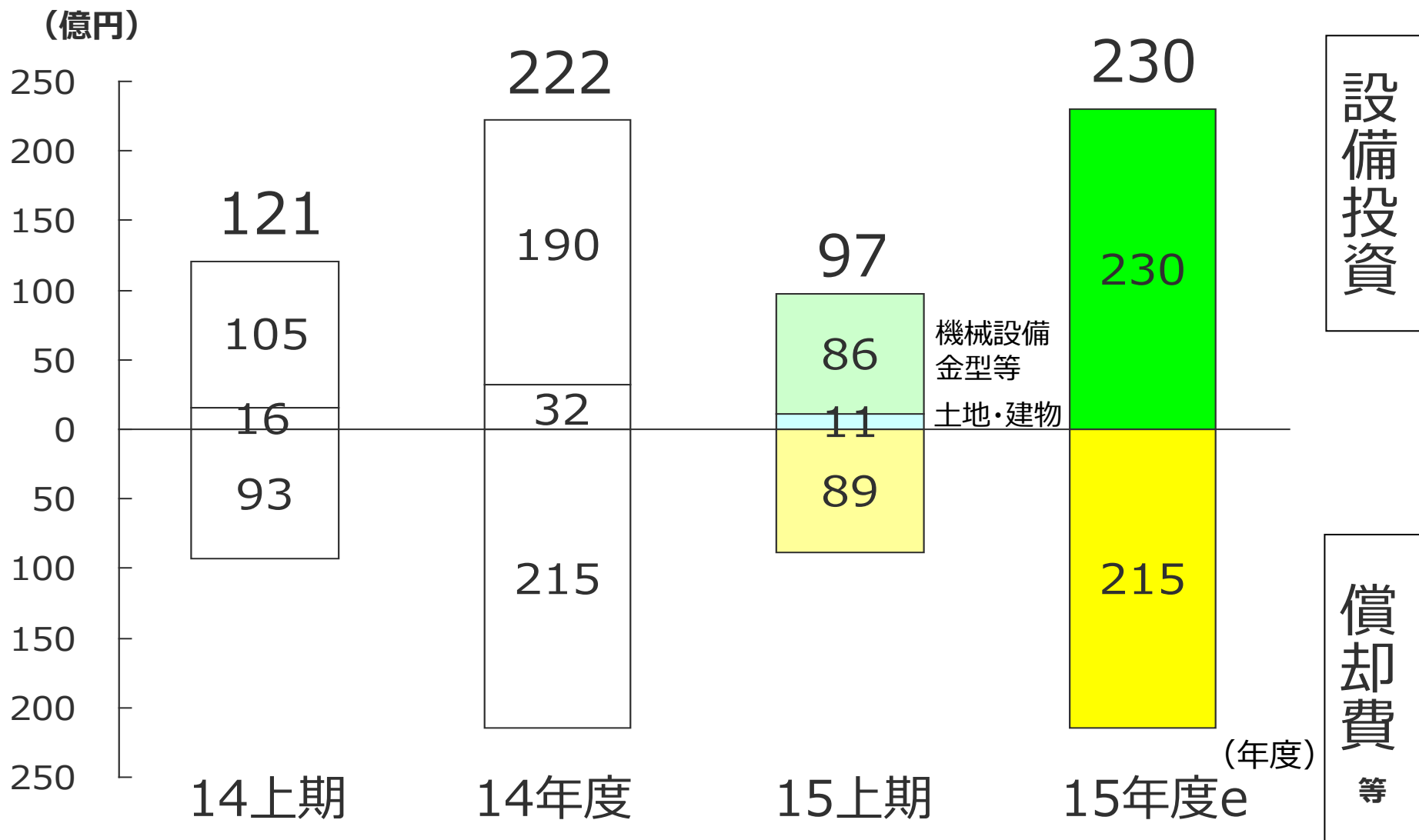


2. 全社売上・利益見通し

	2014年度 通期実績	2015年度 通期予想	前年比 15通期／14通期	
	(億円)	(億円)	(億円)	(伸率)
売上高	1,912	2,030	+118	106%
営業利益	259	270	+11	104%
経常利益	232	240	+8	103%
純利益	158	170	+12	108%

※ 金額は億円単位に四捨五入しております。

3. 設備投資・償却費見通し



Technology to Inspire Innovation



JAE

<注意事項>

本資料に記載されている当社および連結子会社（以下JAEと総称します）の計画、戦略および業績見通し・目標は2015年10月28日現在の予測・目標であって、リスクや不確定な要素を含んでおります。

本資料に記載されている目標は予想ではなく、将来の業績に関する経営陣の現在の予想を反映したものでもありません。

むしろ、経営陣が事業戦略の実行を通じて達成しようとする目標であります。

実際の業績は、様々な要因により、見通し・目標等と大きく異なる結果となりうることを予めご承知願います。実際の業績等に影響を与える重要な要因としてはJAEの事業領域を取り巻く日本・欧米・アジア等の政治・経済情勢、市場におけるJAE製品（リフト製品を含む）に対する需要変動、競争激化による価格下落圧力、および競合各社に打ち勝ち供給し続ける能力、海外市場における事業拡大能力、事業活動に関する法規の変更やその不透明さ、潜在的な法的責任、為替レートなどがありますが、これら以外にも様々な要因が有り得ます。世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷などにより、実際の業績等が経営目標その他の見通しと異なる結果となる可能性もあります。将来予測に関する記述は、その日現在のものであることをご承知おきください。

新たなリスクや不確定要因は随時発生することが明らかですが、その発生や影響を予測することは不可能であります。また、リスクや不確定要因がある為、将来予測に関して記述されている内容が実際には起こらない場合もあります。これらの記述に全面的に依拠することの無きようお願いいたします。